



Vol.130
令和3年度4月号

伊豆沼 2 工区、3 工区の堤防において野火（野焼き）が行われました。

令和3年3月6日に、伊豆沼周辺の堤防において野火（野焼き）が行われました。堤防は、背丈の高いヨシ原に覆われ、そこでは、多種多様な湿生植物が生育し、魚が産卵を行っています。また、オオヨシキリなどの鳥、タヌキ、キツネ、ノウサギといった動物の住み家となっています。しかし、ヨシ原をそのまま放置しておくとならば、ヤナギなどの樹木が入り込み、見通しの悪い林になってしまい、ヨシ原を住みかとする多くの生き物は、住むことができなくなります。また、見通しの悪い林は、ゴミの不法投棄が行われやすい場所でもあります。そこで、ヨシ原を維持するための管理が必要となっています。野焼きは、大規模なヨシ原を維持するには最も効果的な手法です。芽吹く前のヨシ原に火をつけ、枯れ草や侵入した樹木の若木を焼いてしまうことで、ヤナギ林になってしまうのを防ぐ効果があります（これを遷移の退行といいます）。野焼き後のヨシ原は、地面まで日光が届くようになります。また、灰はヨシ原に生育する植物の肥料となります。そのため、野焼きを行っているヨシ原は、健全な状態を維持できます。



野火後



ヨシは、昔からヨシズなど様々な道具の材料として、人々に利用されてきました。しかし、石油製品の普及と共に、ヨシの利用は廃れてしまいました。そのため、野焼きも各地で行われなくなり、良好なヨシ原は減少していきました。しかし、利用する生物が多く、水辺を代表する景観を作るヨシ原の衰退は、漁業や観光など、様々な方面に予期しない悪影響をもたらすことから、現在では、生物の多様性を維持するための野焼きを復活させる試みが各地で行われるようになってきました。

北帰行前のオオハクチョウ



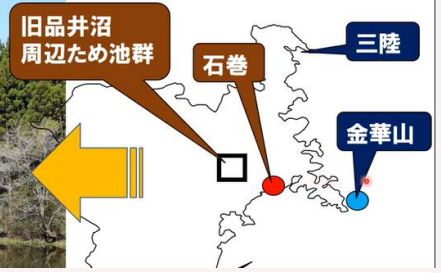
2月26日の早朝、渡り鳥の羽数調査の際、写真のように沼の中央で首を上げて集まっているオオハクチョウの群れが見られました。

これは北帰行前の特徴で、首を上げて密に集まり、鳴き交わしながら、飛び立つタイミングを待っているのです。しばらく観察していると、群れは飛び立ち始め、北の丘陵地を越えて見えなくなりました。GPS追跡の結果をみると、越冬期は農地に移動しても沼の近くで移動し、丘陵地を越えることはほとんどありません。この群れは北の中継地を目指して渡っていったのでしょう。秋に無事に帰ってくることを願っています。

「シナイモツゴ郷の会」のWebシンポジウム開催

2月に大崎市のNPO、「シナイモツゴ郷の会」のWebシンポジウムの中で「ブラックバスを駆除してゼニタナゴを復元」という題目で当財団の藤本主任研究員がお話しさせていただきました。このシンポでは温暖化問題なども取り上げられ、宮城県で近年起きている魚介類を中心としたさまざまなテーマについて取り上げました。例えば、捕れなくなったサンマやサケ、増えてきた魚など、私たちの食卓に係る話も聞けます。現在、下記URLで無料視聴できますので、興味をお持ちの方はご覧ください。

温暖化で変動する東北の海面と内水面の魚たち



暖水性淡水魚が北限を更新

①ボウズハゼ

1955年の北限は茨城県那珂川水系
2001年に福島県出川
2005年に福島県真野川
2019年に気仙沼市の津谷川で初めて採集。
北限記録は年々更新されている。



https://www.youtube.com/channel/UCnHEIMTHGseqfzfn4_6-lw

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～タナゴ *Acheilognathus melanogaster* ～



タナゴ（マタナゴ）は、主に平野の河川や湖沼に生息するタナゴの仲間です。とても俊敏な魚で、近縁他種がのんびりした印象なのとは対照的です。春にはオスに婚姻色が表れ、美しい姿に変化します。具体的には、各ヒレが黒色に、尻ビレの先が白帯状に、体の側面が紫色に染まります。

タナゴの仲間は、淡水に生息する二枚貝に産卵する生態を持ち、タナゴの仔魚は貝に守られて成長します。しかし、淡水の二枚貝が減少したため、タナゴの仲間も数を減らしています。マタナゴも例外ではなく、絶滅が危惧されています。伊豆沼・内沼では、マタナゴの保全に取り組んでおり、復活の兆しが出始めています。

第61回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン中止

3月20日(土)に予定していました伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンですが、3月18日に出された宮城県の緊急事態宣言の外出自粛要請に伴い、2年続けて中止となってしまいました。

一日も早く新型コロナが収まり、来年こそクリーンキャンペーンが実施出来ることを願っています。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ: <http://izunuma.org/>
E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp

